

《担当者名》講師／中山 章
講師／櫻田 渉 非常勤講師／吉田 栄一
客員教授／狭間 研至（ファルメディコ株式会社・代表取締役社長）

【概 要】

人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。

【学修目標】

☆患者の権利を考慮し、責任をもって医療に参画できるようになるために、医薬品医療機器等法、薬剤師法などの医療及び薬事関係法規、制度の精神とその施行に関する基本的知識を修得し、それらを遵守する態度を身につける。
☆地域薬局のあり方と業務を理解するために、医薬分業の意義、薬局の役割や業務内容、それらを活用するための基本的知識を修得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	コミュニティファーマシー① 教科書：上 p9～16	●地域における薬局の機能と業務について説明できる。 ●医薬分業の意義と動向を説明できる。 ●かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 ●医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 ●地域包括ケアの理念について説明できる。 ●地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 ●地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）及びその意義について説明できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 B-(4)-①-1～3, 6、B-(4)-②-1, 4、F-(4)-②-1	中山 章
2	コミュニティファーマシー② 教科書：上 p256～264, 272～277	●健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。 ●薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 ●学校薬剤師の役割について説明できる。 ●地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。 ●公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 A-(1)-②-6～7、B-(4)-②-3、F-(5)-②-1～2	中山 章
3	セルフメディケーション① 教科書：上 p278～313	●セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 ●地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。 ●要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。 ●主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。 ●一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健	中山 章

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 B-(4)-①-4、E2-(9)-1～2,6～7	
4 5	セルフメディケーション② 教科書：OTC p60～555	●現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度) ●代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる《模擬》。(知識・態度) 【PBL】 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 F-(5)-③-1～2	中山 章
6	セルフメディケーション③ 教科書：上 p265～271、OTC p2～59	●薬局製剤・漢方製剤について概説できる。 ●代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。 ●以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 E2-(9)-3,5、F-(2)-⑤-7	中山 章
7	在宅医療と介護 教科書：下 p232～244	●在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。 ●在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。 ●在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 F-(5)-①-1～3	吉田 栄一
8	保険薬局の基礎知識 教科書：下 p11～19 教科書：上 p41～51,54	●保険薬局に必要な法規制について説明できる。 ●薬局業務運営ガイドラインについて説明できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 B-(4)-①-1	吉田 栄一
9	調剤報酬と請求業務 教科書：上 p52～56	●調剤報酬点数表について説明できる。 ●調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。 ●調剤報酬請求業務について概説できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 B-(3)-①-7	吉田 栄一
10	調剤報酬の算定① 教科書：上 p52～56	●調剤報酬算定項目について概説できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 B-(3)-①-7	吉田 栄一
11	調剤報酬の算定② 教科書：上 p52～56	●調剤報酬算定項目について概説できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 B-(3)-①-7	吉田 栄一
12	災害時医療と薬剤師 教科書：上 p82	●災害時の薬局の役割について説明できる。 ●災害時医療について概説できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 B-(4)-①-5、F-(5)-④-1	櫻田 渉

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13) 14	合同討議	●地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度) ●患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) ●地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度) 【SGD・TBL】 ≪関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標≫ B-(4)-②-5、F-(1)-②-3、F-(4)-②-2	櫻田 渉
15	在宅医療・かかりつけ薬剤師 教科書：上 p12～16,41～42,278～280	●地域包括ケアの理念について説明できる。 ●在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 ●地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度) ≪関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標≫ B-(4)-②-1～2,5	狭間 研至 櫻田 渉

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

期末定期試験（80％）、授業態度（確認テスト、レポート、演習態度を含む）（20％）により評価する。

なお、レポート、演習態度の評価では、ルーブリック表を用いる。

【教科書】

「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社

「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本 第3版」 上村直樹、平井みどり 羊土社

【参考書】

今日のOTC薬 改訂第5版 中島恵美、伊東明彦 南江堂

調剤指針（日本薬剤師会編 薬事日報社）

保険薬局業務指針（日本薬剤師会編 薬事日報社）

【学修の準備】

- ・1～5回目の授業では、予習として講義範囲について教科書を読み、該当するSB0のweb問題を解くこと（70分）。
- ・1～5回目の授業では、復習として、正解しなかったweb問題について、教科書、配布プリント等を利用してまとめておくこと（90分）。
- ・9、12～14回目の授業では、予習として講義範囲について教科書を読み、該当するSB0のweb問題を解くこと（70分）。
- ・9、12～14回目の授業では、復習として、正解しなかったweb問題について、教科書、配布プリント等を利用してまとめておくこと（90分）。
- ・10～11回目のSGD・TBLにあたっては、事前に資料を配付するので、個々で調べて授業に臨むこと（80分）。また、授業終了後にはClassroomに、すべての班のプロダクトを掲載するので、他の班のプロダクトを読んでおくこと（80分）

【関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標】

A 基本事項

- (1) 薬剤師の使命 【②薬剤師が果たすべき役割】

B 薬学と社会

- (3) 社会保障制度と医療経済 【①医療、福祉、介護の制度】

- (4) 地域における薬局と薬剤師 【①地域における薬局の役割】

【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】

E2 薬理・病態・薬物治療

- (9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション

F 薬学臨床

- (1) 薬学臨床の基礎【②臨床における心構え】
 - (2) 処方せんに基づく調剤【⑤医薬品の供給と管理】
 - (4) チーム医療への参画【②地域におけるチーム医療】
 - (5) 地域の保健・医療・福祉への参画【①在宅（訪問）医療・介護への参画】
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】
- 【④災害時医療と薬剤師】

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

中山 章（薬剤師）、櫻田 渉（薬剤師）、吉田 栄一（薬剤師）、狭間 研至（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

保険薬局での薬剤師としての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している